



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Recovery Manager Central 3.0.0 リリースノート

摘要

本書は、HPE Recovery Manager Central、HPE Recovery Manager Central for Oracle、HPE Recovery Manager Central for Microsoft SQL、および HPE Recovery Manager Central for VMware のソフトウェアリリースでの、新機能および既知の問題について説明しています。

部品番号: 837753-195
2016 年 8 月
第 1 版

© Copyright 2015、2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、欠落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

サードパーティ製品の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise 以外の Web サイトを紹介するものです。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise 以外の Web サイトの情報については、管理しておらず、また責任を負いません。

商標について

Microsoft® および Windows® は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

VMware®, VMware® vCenter Server™、および VMware vSphere® Web Client は、米国およびその他の地域における VMware, Inc.の登録商標または商標です。

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java および Oracle は、Oracle またはその関連会社の登録商標です。

目次

1	リリースの説明	4
	更新された情報	4
	サポートされるハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェア	5
	言語	5
2	特長と機能	6
	3.0.0 リリース	6
3	修正点	8
	RMC	8
	RMC-O	8
	RMC-S	8
	RMC-V	8
4	問題および推奨処置	9
	RMC	9
	RMC-O	9
	RMC-S	9
	RMC-V	9
5	ドキュメントマップ	11
6	サポートとその他の資料	12
	Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス	12
	アップデート情報の取得	12
	Web サイト	12
	リモートサポート	13

1 リリースの説明

本書は、HPE Recovery Manager Central、HPE Recovery Manager Central for VMware、HPE Recovery Manager Central for Microsoft SQL、および HPE Recovery Manager Central for Oracle の 3.0.0 ソフトウェアリリースでの、機能の変更および不具合の修正についての概要を説明しています。このソフトウェアバージョンには、新機能、拡張、および修正が含まれています。

HPE Recovery Manager Central (RMC)

HPE Recovery Manager Central (RMC) ソフトウェアは、HPE 3PAR StoreServ のプライマリストレージまたは HPE Hyper Converged 250 System と、Catalyst ライセンスを持つ HPE StoreOnce Backup System を統合し、統合型のデータ保護を提供します。このデータ保護により、アプリケーション整合性およびクラッシュ整合性のあるリカバリポイントからのリカバリが保証されます。詳細は、『HPE Recovery Manager Central 3.0.0 ユーザーガイド』を参照してください。

HPE StoreOnce へのバックアップは、ボリュームのブロックレベルのコピーで、スペースを節約するために重複排除されています。また、元のベースボリュームが失われても、元どおりに回復するか、または別の 3PAR StoreServ アレイまたは HPE Hyper Converged 250 アレイに回復するために使用することができます。

HPE Recovery Manager Central for Oracle (RMC-O)

RMC-O を使用すると、Oracle データベース管理者は、HPE 3PAR StoreServ 上でスナップショットを作成、スケジュール設定、および管理することができます。RMC-O は、Oracle データベースのポイントインタイムスナップショットからオンライン回復を行うデータ保護ソリューションです。

RMC-O Express Protect 機能は、HPE 3PAR StoreServ から HPE StoreOnce への Oracle ボリュームのバックアップを使用して、第二のデータ保護を提供します。RMC-O を使用すると、HPE Data Protector、Symantec NetBackup、または Oracle Recovery Manager (RMAN) でメディアバックアップを作成することができます。詳細は、『**HPE Recovery Manager Central 3.0.0 for Oracle ユーザーガイド**』を参照してください。

HPE Recovery Manager Central for Microsoft SQL (RMC-S)

RMC-S を使用すると、Microsoft SQL Server 管理者は、アプリケーション整合性のあるリカバリポイントによって、SQL Server インスタンスおよびデータベースを保護することができます。アプリケーション整合性のあるスナップショットは、HPE 3PAR StoreServ 上で作成、スケジュール設定、および管理されます。詳細は、『HPE Recovery Manager Central 3.0.0 for Microsoft SQL ユーザーガイド』を参照してください。

HPE Recovery Manager Central for VMware (RMC-V)

RMC-V により、VMware 管理者は、アプリケーション整合性のあるスナップショットを作成し、VMware vCenter™ Server の仮想管理コンソールから VM の高速なオンラインリカバリを開始できます。RMC Express Protect 機能を使用すると、VM のスナップショットをバックアップおよび復元することができます。

Element Recovery Technology (ERT) により、StoreOnce 上の Express Protect バックアップから個々の VM または VM 内のファイルを復旧できます。詳細は、『HPE Recovery Manager Central 3.0.0 for VMware ユーザーガイド』を参照してください。

更新された情報

RMC 2.0.2

サポートされるハードウェア、ファームウェア、およびソフトウェア

サポートされている HPE ストレージ製品と、関連する環境、ハードウェア、およびソフトウェアプラットフォームについては、**SPOCK** を参照してください。

言語

この製品でサポートされている言語は、英語です。ガイドおよびリリースノートは、英語、日本語、および簡体字中国語版が用意されています。

2 特長と機能

3.0.0 リリース

RMC

- Hyper Converged 250 ストレージシステムをサポートするようになりました。
 - クラッシュ整合性のあるスナップショット (RMC-Vからは、さらにアプリケーション整合性のあるスナップショット) を作成できます。
 - Hyper Converged 250 スナップショットの Express Protect バックアップを行い、そのスナップショットを復元することができます。
- Element Recovery Technology (ERT) を使用して、HPE StoreOnce Backup System から、読み取り専用エンティティとして Express Protect オブジェクトにアクセスできるようになりました。任意のホストの Express Protect に、iSCSI を介してアクセスすることができます。
- [Backup Policies]、[Backup Systems]、[Catalyst Copy]、[Copy Policies]、[Interface Servers]、[Oracle Servers]、および [Storage Systems] などの項目を追加または変更することで、パーソナライズしたダッシュボードを作成できるようになりました。また、[Display Only Critical, Warning and Unknown State] を選択することで、アラートを構成することができます。
- 診断機能を使用して、問題の診断を実行できるようになりました。診断結果を最新の状態にし、ストレージシステム、Remote Copy、StoreOnce、ハードウェア、サービス、および VMware vCenter のステータスを参照することができます。
- HPE 3PAR および HPE StoreOnce で、ファイバーチャネルのマルチパス機能がサポートされました。パスのフェイルオーバーが効率的になるように、ストレージシステムへの、ファイバーチャネルのマルチ (冗長) パスを構成することができます。マルチパス機能は、以下の項目を強化します。
 - Recovery Point Objective (RPO) および Recovery Time Objective (RTO) を改善する、バックアップおよび復元のスループット。
 - バックアップまたはリストア操作中の、パスの障害に対するフォールトトレランス。
- Express Protect の中断機能を使用して、アクティブな Express Protect 操作をキャンセルできるようになりました。
- Express Protect バックアップの、時間ベースのライフサイクル管理が提供されました。
- ユーザー指定の RMC アクティビティが成功または失敗したときに、電子メール通知を送信できるようになりました。
- スナップショットおよび Express Protect の作成時に、分指定のオプションを使用してスケジュールを作成できるようになりました。

RMC-O

RMC-O には、リリース 3.0.0 から、保護機能または Oracle データベースのサポートが追加されました。

- Oracle ASM がサポートされました。
- アプリケーション整合性のあるデータベースバックアップを実行できるようになりました。RMC-O は、アプリケーション整合性のあるデータベースバックアップを実行するために、Oracle アプリケーションサーバー上にエージェントをインストールします。
- HPE 3PAR StoreServ 上で、Oracle データベースのアプリケーション整合性のあるスナップショットを作成、スケジュール設定、および管理できるようになりました。

- Web ベースの GUI および CLI インターフェイスを使用して操作を実行できるようになりました。
- HPE StoreOnce、HPE Data Protector、Oracle RMAN、または Symantec NetBackup を使用して、オフホストのバックアップ操作を実行できるようになりました。
- レガシーの HPE 3PAR Recovery Manager Software for Oracle (RMO) のスナップショットおよびバックアップカタログを、RMC-O データベースに移行できるようになりました。
- スナップショットのコピーをローカルおよびリモートに作成できるようになり、スナップショットのジョブをスケジュール設定できるようになりました。
- 時間ベースおよび数値ベースの保護ポリシーを作成できるようになりました。
- 複数の Oracle データベースのスナップショットを同時に作成できるようになりました。
- HPE StoreOnce、HPE Data Protector、Oracle RMAN、または Symantec NetBackup による保護からの復元操作を実行できるようになりました。

RMC-S

3PAR HOSTSET と VVSET の組み合わせのサポートが改善されました。

RMC-V

- RMC-V インストールウィザードを使用して、RMC-V プラグインをインストールまたはアップグレードできるようになりました。
- HPE Hyper Converged 250 System がサポートされました。
- [Storage Systems]、[Backup Systems]、[RMC Appliances]、[vCenter Server] の管理ページが、RMC-V プラグインに統合されました。
- 電子メール通知を追加できるようになりました。
- マウントされている Express Protect オブジェクトから仮想マシンを回復できるようになりました (インスタントリカバリ)。また、マウントされている Express Protect オブジェクトで VM をリストすることもできます。VM を、別のターゲットデータストアに入出力 (IO) をリダイレクトするオプションを指定して回復することが可能です。vCenter に VM が登録された後、VM にログインし、ファイルを回復することができます。
- スケジューラーを使用して、RMC-V のキャッシュを一日に一度、自動的にリフレッシュできるようになりました。

3 修正点

この項では、現在のリリースで修正された、以前のリリースでの不具合をリストします。

RMC

このリリースでは、RMC の修正はありません。

RMC-O

このプラグインの最初のリリースであるため、この項に記載される修正はありません。

RMC-S

- RMC-S ポリシーの制限の最大値が大きくなりました。
- HPE Data Protector メディアから SQL データベースまたはインスタンスを復元すると、HPE Data Protector Media 復元ではなく、Snapshot File Copy 復元が誤って実行されていました。
- SQL がドメインユーザーアカウントで実行され、UAC が有効の場合、RMC-S は SQL Server の登録に失敗していました。

RMC-V

VMFS スナップショットが VM に存在する場合、コピー VMDK の回復オプションはサポートされていませんでした。

推奨される処置

処置は必要ありません。

4 問題および推奨処置

この項では、各 RMC プラグインの、未解決および既知の問題についてリストします。発生する可能性のある問題を最初の文章で、推奨される処置をそれ以降の文章で説明します。

RMC

- **RMC ユーザーインターフェイスの [Express Protect] ページの [Delete] アクションが、複数の Express Protect が選択されていても許可されます。ただし、削除が試みられるのはリストの 1 番目の Express Protect だけです。**

推奨される処置

処置は必要ありません。

- **HC 250 の Express Protect バックアップが失敗することがあります。**
ボリュームのサイズが GB 全体ではなく、マルチストリーム数が 4 を超えている場合、HPE Hyper Converged 250 System の Express Protect バックアップは失敗することがあります。

推奨される処置

マルチストリーム数が 1、2、または 4 のバックアップポリシーを使用して、再試行してください。

- **RMC では、ストレージシステム上のリソースの稼働状況および可用性をデータベースと同期させるリフレッシュメカニズムを利用できません。**

推奨される処置

手動でリフレッシュしてください。

RMC-O

このリリースでは、RMC-O の問題はありません。

RMC-S

RMC-S GUI および CLI は、バックアップポリシーのライフサイクルの有効期限の値を表示しません。

推奨される処置

Express Protect バックアップ ID に対応する有効期限を見つけるには、**[HPE Recovery Manager Central]→[Express Protect]** を選択してください。

RMC-V

- **[Manage] タブの [Mount/Unmount] オプションが無効になっています。**
VMがないデータストアが存在する場合、Remote Copy のスナップショットには、**[Manage]** タブの **[Mount/Unmount]** オプションが無効になるという制限事項があります。

推奨される処置

データストアのスナップショットに VMware オブジェクトが存在すれば、Remote Copy スナップショットをマウント/アンマウントすることができます。

- **スナップショットボリューム上に存在する VMDK を親スナップショットにアタッチすると、問題が発生します。**

推奨される処置

スナップショットボリューム上に存在するVMDKを、親スナップショットに戻してアタッチするには、以下の手順に従います。

1. 親のVMの **[Summary]** タブに移動します。
 2. **[Answer Question]** リンクをクリックし、ポップアップを表示します。
 3. **[Yes]** を選択して、VMDK をスナップショットにアタッチします。
- RMC GUI の **[Recommended Actions]** フィールドには、**[Incremental Express Protect]** または **[Full Express protect]** 操作が失敗した場合のアクションは表示されません。

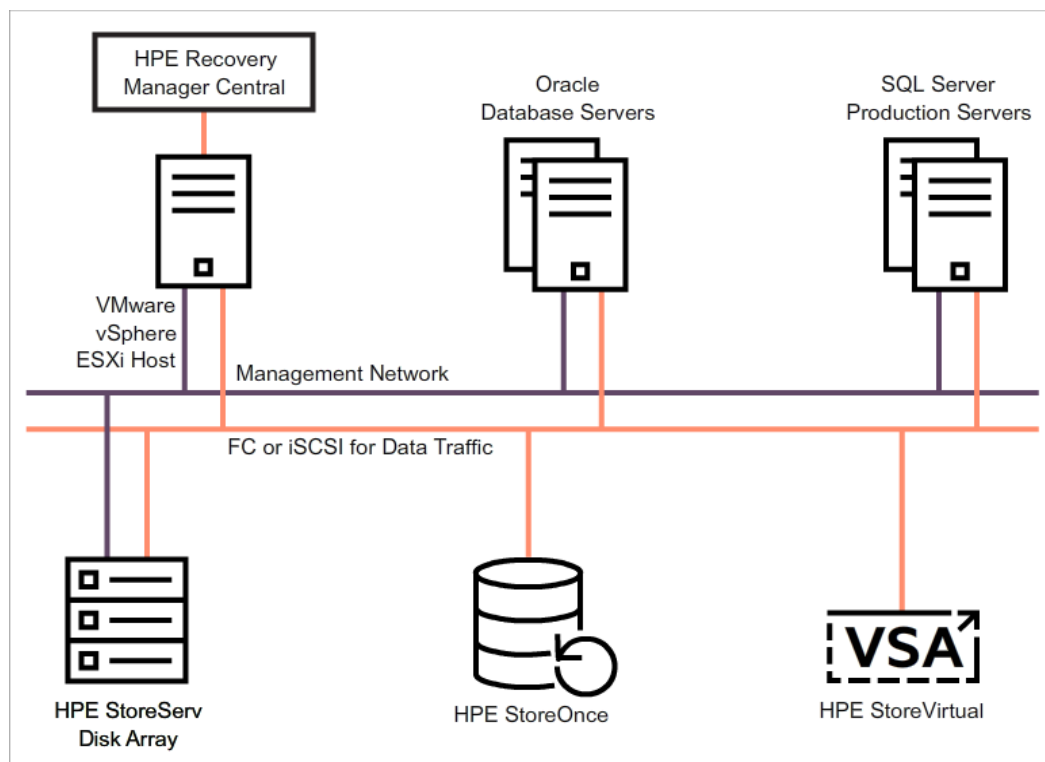
推奨される処置

RMC GUI の **[Activity]** ページに移動し、エラーメッセージの詳細を参照してください。

5 ドキュメントマップ

この項に記載されている、以下の対話型の図には、リアルタイムで相互動作する各種のコンポーネントが含まれています。コンポーネントを1つずつクリックすると、そのソフトウェアのドキュメントの Web アドレスが分かります。選択したコンポーネントのソフトウェアのドキュメントを表示するには、クリックしたコンポーネントに対して表示された Web アドレスリンクをクリックしてください。

注記: 対話型の図を参照するには、Adobe Flash Player 22 以降のバージョンがシステムにインストールされている必要があります。



6 サポートとその他の資料

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスが必要な場合は、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトを参照してください。
www.hpe.com/assistance
- ドキュメントおよびサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise Support Center の Web サイトを参照してください。
www.hpe.com/support/hpesc

アップデート情報の取得

- 一部のソフトウェア製品は、製品のインターフェイスを介してソフトウェアのアップデートへアクセスするメカニズムを提供しています。製品のドキュメントを参照して、推奨されているソフトウェアアップデート方法を確認してください。
 - 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかのサイトを参照してください。
 - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[Get connected with updates from HPE]** ページ:
www.hpe.com/support/e-updates
 - Software Depot の Web サイト:
www.hpe.com/support/softwaredepot
 - ご使用の利用権限の表示および更新、お客様のプロファイルにより、契約、Care Pack、および無償保証へリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[More Information on Access to Support Materials]** ページに移動します。
www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials
- ① **重要:** Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスする場合、一部のアップデートへのアクセスには、製品の使用権が必要なことがあります。関連する利用権限を用いて HPE パスポートを設定する必要があります。

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Worldwide へのお問い合わせ	www.hpe.com/assistance
サポート情報	www.hpe.com/support/e-updates
Software Depot	www.hpe.com/storage/rmc/swdepot/
参考資料	
Hewlett Packard Enterprise Information Library	www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise Information Library の RMC ドキュメント	www.hpe.com/storage/rmc/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	www.hpe.com/support/hpesc

Web サイト	リンク
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) Storage の互換性マトリックス	www.hpe.com/storage/spock/
ストレージのホワイト ペーパー	www.hpe.com/storage/whitepapers

リモートサポート

リモートサポートはお客様の無償保証、Care Pack サービス、またはサポート契約の一部としてサポートされているデバイスで使用できます。リモートサポートでは、インテリジェントなイベント診断、およびハードウェアイベント通知の Hewlett Packard Enterprise への安全な自動送信を提供します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて迅速かつ正確な解決が開始されます。Hewlett Packard Enterprise は、ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くお勧めします。

デバイスのサポートなど詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs